

第2学年 社会科学習指導案

2年3組 男子22名 女子19名 計40名

指導者 桶谷 悠祐

【授業】13:10～14:00 会場 2年3組(3階)

【協議会】14:15～15:25 会場 2年4組(3階)

1 単元名 武家政権の展開と世界の動き (大航海によって結び付く世界)

2 単元について

(1) 単元設定の趣旨

①学習指導要領における位置付け

本単元は、平成29年告示の中学校学習指導要領の歴史的分野の大項目「B 近世までの日本とアジア」、中項目(3)「近世の日本」にあたる。ア(ア)「ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたこと」を理解したり、イ(ア)「交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして」、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付けたりすることをねらいとする。

②社会の要請から

平成29年告示の中学校学習指導要領解説社会編では、改訂の趣旨としてこれまでは「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であること」を指摘されていることから、社会科では、「社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育てていくことが求められる」とある。また、歴史的分野における改訂の要点として、「ア 歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視」や「ウ 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実」が挙げられた。本単元で取り扱う時代では、ヨーロッパ人による新航路開拓が続いた大航海時代が確立した。歴史学的にも、大航海時代が発展したことで、各大陸間で人・もの等がさかんに行き来するようになり、「世界の一体化」へつながっていくことは、現代の「グローバル化」の先駆けとして重視されることがある。例えば、現代の日本でも、国際競争や国際分業、国際協力等で諸外国と密に関わり合っていたり、異なる文化をもつ外国人がより身近にいたりしている。日本において「グローバル化」がより進展を見せたのは、第二次世界大戦以降、20世紀後半にかけて、貿易の自由化やプラザ合意による円高進行といった社会的事象が挙げられるが、これらは第3学年での歴史的分野及び公民的分野で学習する内容である。しかし、生徒が上記に挙げた社会的事象の意義をより深く捉えるためには、「世界の一体化」にどのような意味があったのかを理解していることが必要であると考える。第2学年で大航海時代を取り上げ、「グローバル化」の先駆けともなった「世界の一体化」の価値や重要性とともに課題や欠点についても目を向けさせることで、生徒がこれから学習していく我が国の歴史をより深く理解し、歴史について考察・説明する力の育成につながるのではないかと考えた。

③歴史学研究における位置付け

7世紀以降、イスラム勢力が西アジアを支配することになり、ヨーロッパが香辛料などアジアの

産物を手に入れるためにはイスラム商人から取り引きする必要があり、その価格は非常に高額であった。そこで、15世紀以降、ヨーロッパが直接、アジアの国々と取り引きするために起こったのが、この大航海時代である。大航海時代により、ヨーロッパから各大陸への新航路が確立されたことで、ヨーロッパとアフリカ、アジア、アメリカ大陸との間で、各地の動植物や産物、病気などが、互いに急速に広まっていく。また、厳しい労働や伝染病でアメリカ大陸の先住民が激減すると、ヨーロッパはアフリカから奴隷を連れてきて働かせた。さらに、日本では、ヨーロッパから鉄砲やキリスト教が伝わることとなる。このように「世界の一体化」へとつながっていく大航海時代は、大陸や地域の枠を越えて人・もの・金などが移動する「グローバル化」の先駆けであったともいえる。この大航海時代による新航路確立は、突発的に起こったものではなく、イスラム勢力拡大とそれに伴う十字軍の派遣、イスラム文化の流入、さらには、ヨーロッパでのルネサンスの勃興など歴史的事象を背景としている。この「世界の一体化」は異文化交流によって確立したものであるといえる。

また、この「大航海時代」は新航路開拓を行ったヨーロッパを主軸として語られている言葉でもある。ヨーロッパの視点から見れば、植民地支配に成功し、商工業が発展し経済の繁栄へとつながっていくが、アメリカ大陸やアフリカの視点で見れば、もともと栄えていたアステカ王国やインカ帝国が滅ぼされ独自の文明が破壊されたり、原住民が奴隷として連れ去られ労働力が激減したりするなど、不利益を被るかたちとなった。

大航海時代による新航路確立の要因と大航海時代が各諸地域にもたらした影響をもとに、大航海時代の歴史的意義を追究する単元構成とした。

(2) 生徒の実態

本実践においては、資料を読み取ったり、読み取ったことをもとに自分の考えを説明したりする活動を行う。第1年次は南アメリカ州の学習で、「なぜ、ベネズエラは原油埋蔵量が世界1位なのに生産量は小さいのだろうか。」という課題のもと授業を行っており、多くの生徒が資料を読み取り、根拠を基に歴史面・経済面など多面的な視点から自分の意見を主張することができた。本時では、誰（どの地域）にとって、どのような影響があったのかなど、立場を意識させることで、より多角的に歴史的事象を考察できるようにする。そして、過去の出来事が生徒の生きる現代社会の諸課題に通ずることがあることに気付かせたい。

(3) 指導の構え

本校の研究主題である「主体性の高まりをめざす課題学習」と関連し、単元構成を工夫して歴史的意義について考える学習課題を設定した。歴史的な分野はすでに起きてしまった過去の事象を取り扱うため、現代を生きる生徒にとって、過去の事象と現代の生活とのつながりを実感することが難しい場合がある。そこで、現代社会の特色である「グローバル化」の先駆けとなった「世界の一体化」が始まった大航海時代を取り扱う。これに関する課題を追究する過程で、社会的な見方・考え方を働かせながら、大航海時代における新航路確立の要因や大航海時代が及ぼした影響とその課題に迫ることができる展開とし、第3学年次における歴史的な分野や公民的分野での学習につながるようにするとともに、現代社会に通ずる諸課題を取り扱うことで自分事として、歴史的事象を捉えられるようにしたい。

本実践においては、本時の学習課題を「本当に大航海時代は世界に発展をもたらしたのか。」とした。この課題を解決するために、大航海時代が各地域にもたらした影響を考え、大航海時代の歴史的意義について考察する。経済面や文化面、宗教面など多面的に考えさせるとともに、先進国・後進国それぞれの立場から多角的に考えさせることで、歴史について考察する力や説明する力の育成していきたい。また、大航海時代という歴史的事象に対して、様々な見方・考え方ができるということに気づかせ、より主体的に課題学習に取り組む生徒の姿に期待したい。

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

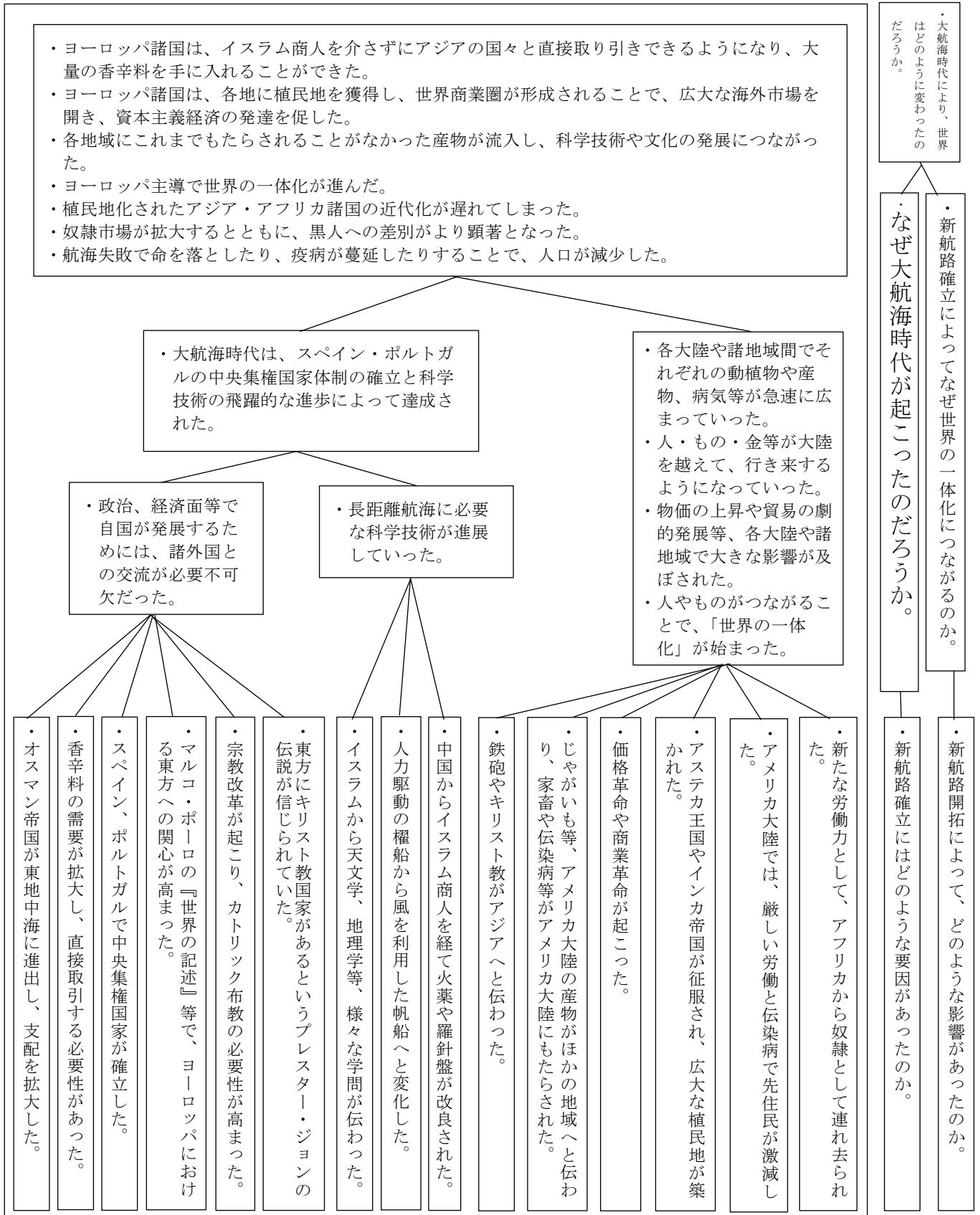
本単元で「深い学び」が実現している状態を、次の図に示した。

「知識の構造図と発問の構造図」 「社会的見方・考え方の成長過程図（知識の構造図）」⇔「発問の構造図」

【概念2】

【概念1】

【知識】



4 単元の目標

- ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解することができる。 (知識及び技能)
- 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- よりよい社会の実現を視野に、中近世の歴史的事象から現代社会とのつながりを見つけ、現在や将来の生活に生かすことができる。 (学びに向かう力・人間性等)

5 全体計画 (全4時間) ※ 本時に関わる部分のみ抜粋

- 第1次 なぜヨーロッパ人は日本にたどり着くことができたのだろうか。 1時間
- 第2次 なぜ大航海時代は起こったのだろうか。 1時間
- 第3次 本当に大航海時代は世界に発展をもたらしたのだろうか。 2時間 (本時)

過程	教師による発問・指示 (学習課題)	期待される生徒の反応や活動 (獲得される知識・概念)
【第1次】 ヨーロッパ人はなぜ日本にたどり着いたのだろうか。	1. 大航海時代とはどのような時代なのだろうか。(プリテストを行う。) 2. 資料を見比べて、室町時代からどのような変化があっただろうか。 3. なぜヨーロッパ人は日本にたどり着くことができたのだろうか。 4. 大航海時代における新航路はどのように開拓されたのだろうか。 5. 新航路開拓によってどのような影響があったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冒険家が船で世界各地を渡った時代。 ・ 新大陸が見つかった時代。 ・ ヨーロッパの人々がいる。 ・ 宣教師がいる。 ・ 戦いの中に、鉄砲が導入されている。 ・ アジアへの航路が開拓されたから。 ・ キリスト教を布教する必要性があったから。 ・ コロンブスが大西洋を横断して西インド諸島にたどり着いた。 ・ バスコ・ダ・ガマがアフリカ喜望峰を回ってインドまでたどり着いた。 ・ マゼラン一行が世界一周を達成した。 ・ アジアに鉄砲やキリスト教が伝わった。 ・ アステカ王国やインカ帝国が滅亡し、ヨーロッパが植民地を築いた。 ・ じゃがいもやトマト等アメリカ大陸の産物がヨーロッパに伝わった。 ・ 馬や牛等の大型家畜や鉄などの科学技術、伝染病がアメリカに伝わった。 ・ アメリカでは厳しい労働と伝染病で先住民が激減した。 ・ 新たな労働力として、アフリカから奴隷をアメリカに連れてきた。

	<p>11. グローバル化のメリット・デメリットは何だろうか。</p>	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んだ科学技術の他地域へ伝播すること。 ・国際分業が進むこと。 ・新たな文化が形成されること。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の画一化が進むこと ・貧富の差が拡大すること。 ・疫病が世界的に流行すること。
--	-------------------------------------	--

6 本時の学習（全4／4時間）

（1）指導目標

- ・大航海時代における新航路確立がもたらした影響を多面的・多角的な視点から捉えさせ、大航海時代の意義について考察し、説明させる。（思考・判断・表現等）

（2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 これまでの学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代が起こった要因等、どのような背景があったのか、既習事項を振り返らせる。
<p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p style="text-align: center;">本当に大航海時代は世界に発展をもたらしたのだろうか。</p>
<p>3 前時に作成した大航海時代の四象限マトリクスをどのようにまとめたか、発表する。</p> <p>ヨーロッパ・メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カトリック教会は海外布教することができた。 ・アジアの国々と直接、香辛料を取り引きすることができた。 ・とうもろこし、じゃがいも、トマト等が流入し、新たな食文化が栄えた。 ・大西洋を巡る三角貿易によって、砂糖、綿花、コーヒー等がヨーロッパに持ち込まれヨーロッパの消費生活を大きく変えた。 ・各諸地域との貿易が劇的に発展し、商工業が活性化した。 ・産業が活性化することで、資本の蓄積が促され、資本主義経済の基盤となった。 ・巨大な分業システムを構築させた。 <p>ヨーロッパ・デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格革命が起こり、物価が2～3倍上昇し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えの根拠や理由付けをできるように前時までに指導しておく。 ・意見が乏しい場合には、既習である大航海時代の要因や影響を想起させ、ヨーロッパとアメリカ、アフリカ、アジアにとって大航海時代がどのようなものであったか、多角的な視点を働かせるような問いを行いながら、根拠を基に主張できるように促す。また、前時に回収したワークシートで意見を把握しておき、意図的な指名を行う。 ・ヨーロッパ・メリット→ヨーロッパ・デメリット→アメリカ、アフリカ、アジア・メリット→アメリカ、アフリカ、アジア・デメリットの順番で発表させる。 ・各諸地域の立場とメリット・デメリットの視点をマトリクスで板書に位置づけることで、論点を整理した視覚的に分かりやすい板書になるよう、工夫する。 ・各諸地域どちらにも共通するメリットに関

た。

- ・アメリカから入ってきた梅毒が流行した。

アメリカ、アフリカ、アジア・メリット

- ・鉄砲などの科学技術が伝わった。
- ・牛・馬などの家畜が入ってきて、農作業が効率化した。
- ・これまで交流がなかった地域の文化とふれあうことで新たな音楽のジャンルの形成されるなど、新たな文化を形作った。

アメリカ、アフリカ、アジア・デメリット

- ・インフルエンザや天然痘など疫病が流行し、免疫のない多くの先住民が命を落とした。
- ・ヨーロッパの植民地支配によって、先住民は過酷な労働を強いられたり、虐殺されたりした。
- ・インカ帝国やアステカ王国がもっていた独自の文明が破壊された。
- ・アジアやアフリカでは、奴隷として売買され、労働力として、アメリカ大陸に送られた。
- ・黒人差別が助長するきっかけになった。

4 大航海時代の意義についてまとめる。

- ・大航海時代はヨーロッパ主導のもと行われ、ヨーロッパが発展する契機となる一方で、支配された地域は、多くの損害を被った。

5 このように世界の一体化が進むことを、現代社会では何とよいかを確認する。

- ・グローバル化

- 新たな「問い」（切り返しの発問）
「グローバル化にはどのようなメリット・デメリットがあるといえるだろう」

メリット

- ・進んだ科学技術の他地域へ伝播すること。
- ・国際分業が進むこと。
- ・新たな文化が形成されること。

デメリット

- ・文化の画一化が進むこと
- ・貧富の差が拡大すること。
- ・疫病が世界的に流行すること。

しては、マトリックスの線の上に板書するなど、工夫する。

- ・ヨーロッパとアメリカ、アフリカ、アジアのメリットを一通り発表した後、一度、課題に立ち返り、「本当に発展をもたらしたのか」と再度、問いかけることで、デメリットを発表しやすい雰囲気をつくり出す。

- ・各諸地域どちらにも共通するデメリットに関しては、マトリックスの線の上に板書するなど、工夫する。

- ・大航海時代を事例に概念化するために、大航海時代の意義について確認させる。

- ・四象限にまとめられたマトリックスの板書を見て、ヨーロッパのメリット、アメリカ、アフリカ、アジアのデメリットが多いことを捉えさせ、ヨーロッパにとって非常に有利な状況を作り上げたことに気付かせる。

- ・世界の一体化によるメリット・デメリットを挙げさせる。

【思考・判断・表現】（発言・ワークシート）

- ・意見に乏しい場合は、板書の四象限マトリックスを再度確認させ、世界の一体化におけるメリット・デメリットを想起させる。

(3) 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	大航海時代の ① 背景 ② 要因 ③ 意義 を正しく理解している。	世界の一体化について ① 「メリット」 ② 「デメリット」 ③ 現代でも中世でも通ずるものを基に を説明できる。	話し合い活動を通して、自分の考えの変化や深化の根拠や発言を示すことができる。
解答例	①イスラム世界拡大したため、イスラム商人を通してしか取り引きできず、アジアと直接香料の取り引きを行うことを願ったヨーロッパは、②航海術の進化や造船技術の発達などによって、③これまで関わりのなかった国と国とが関わるようになり、ヨーロッパ主導の下、世界の一体化が進んでいった。	世界の一体化は、①・③先進国の科学技術が後進国へと伝播したり、国際分業が進むようになる一方で、②・③先進国の文化に画一化されたり、貧富の差が拡大したりする側面がある。	
A	①～③のすべてを理解して記述している。	①～③のすべてを満たしている。	複数の根拠や発言を示し、自分の考えの変化や深化を記述している。
B	①～③のいずれか2つを理解して記述している。	①～③のいずれか2つを満たしている。	根拠や発言を示して、自分の考えの変化や深化を記述している。
C	①～③の1点のみ、またはいずれも理解していない。	①～③の1点のみ、またはいずれも満たしていない。	自分の考えの変化や深化を記述できなかつたり、その根拠や発言を示せていなかつたりする。

* 知識・技能をプリテスト・ポストテストではかり、思考・判断・表現及び主体的に学習に取り組む態度はワークシートではかる。

7 授業観察の視点

[学習者]：生徒の思考はどのように変容し、深まったか。

[授業者]：大航海時代を四象限マトリックスを用いて捉えさせる手法や新たな（切り返しの）問いは、多面的・多角的な視点から、大航海時代について考察する力や説明する力を高める上で効果的であったか。

〔主な参考文献〕

【方法論】

- ・ 岡崎誠司『社会科の授業改善1 見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013年
- ・ 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書出版、1978年
- ・ 森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書出版、2000年

【内容論】

- ・ 小笠原はるの『グローバル異文化交流史』明石書店 2019年
- ・ 木村靖二 岸本美緒 小松久男 『詳説 世界史B 改訂版』山川出版社 2022年 P201-205、235-236
- ・ ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄（上・下）』草思社文庫 2012年
- ・ 帝国書院編集部 『明解世界史図説 エスカリエ』帝国書院 2019年 P120-121

- ・ ボイス・ペンローズ『大航海時代 旅と発見の二世紀』（荒尾克己訳） ちくま学芸文庫、2020年
- ・ 山本紀夫『先住民から見た世界史 コロンブスの「新大陸発見」』 KADOKAWA 2023年
- ・ 横井祐介『大航海時代大全』 カンゼン 2014年
- ・ ルシオ・デ・ソウザ『大航海時代の日本人奴隷』（岡美穂子訳） 中央公論新社 2017年